

# 歴民だより

富山市亀谷1番地

電話 481-1415

## ミニ企画展 開催中

### 常願寺川と常西合口用水<sup>じょうさいごうくち</sup>

#### — 常西合口用水「世界かんがい施設遺産」登録 —

期間 令和3年4月29日（祝）～6月20日（日）

内容 ・常西合口用水の歴史、関連施設の紹介 等

・常西合口用水 記録写真パネル 【提供 常西用水土地改良区】

・ドローン空撮映像（横江頭首工～左岸連絡水路橋）

【提供 常願寺川沿岸用水土地改良区連合】

#### 完成当時の常西合口用水



第3隧道入口



上滝砂溜大堰堤

## 令和3年度 富山市大山歴史民俗資料館 年間行事予定

7月31日（土） 体験講座「勾玉づくり」

8月1日（日） 体験講座「恐竜ジオラマづくり」

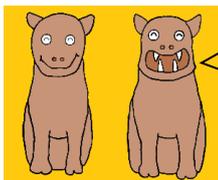
8月8日（祝）～11月14日（日） 企画展「(仮)黒部源流の山と溪谷」

11月6日（土） 関連講座「(仮)黒部源流山小屋暮らし」

（講師 イラストレーター やまとけいこ氏）

2月5日（土）～3月13日（日） ミニ企画展「(仮)山の写真展」

※ 各行事の詳細は、後日、ホームページ等でお知らせします。



当館の第2展示室では、有峰、大山地区の鉾山・恐竜について常設展示しています。今回はその中から「有峰狛犬」（ありみねこまいぬ）について紹介します。

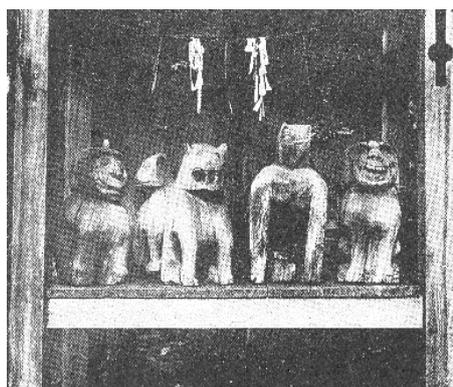
有峰村は、薬師岳のふもと、海拔1,000mの盆地にあり、富山県内で最も山奥にある村でした。江戸時代の初めごろには、「宇連（うれ）」という村名でしたが、その後、「有峰」となりました。村は、高冷地で稲作ができないため、稗を主食とし、生活は楽ではなかったようです。

大正9年（1920年）、富山県が発電所の水源（ダム建造）のため、有峰村の土地を買い上げ、村人は村から去っていきました。

そして、昭和35年（1960年）、有峰ダムが完成し、有峰村は湖底にしずみしました。

村が解村した後、東谷の宮には、木造狛犬8体が置かれていました。（右写真）

それを見た名古屋の資産家の伊藤孝一氏が保護したいと考え、全ての狛犬を買い取りました。その後、狛犬は長野県の知人にあずけられ、松本市の博物館に展示されるようになりました。そして、平成12年に松本市から大山町（現富山市）にもどってきました。



8体の「有峰狛犬」

現在、神社などにある「こまいぬ」と言えば、左右の2体を指すことが多いですが、もともと、角のないほうは「獅子」、1本の角があるほうは「狛犬」と呼ばれていました。

獅子は口を開け（阿形）、狛犬は口を閉じて（吽形）いるものが多く、阿・吽の2体で1対となっています。

有峰狛犬の中で最も古いのは、通称「サル」と言われている狛犬で、鎌倉時代末期に作られました。

## 富山市大山歴史民俗資料館

富山市亀谷1番地 TEL (076)481-1415 FAX (076)481-1417

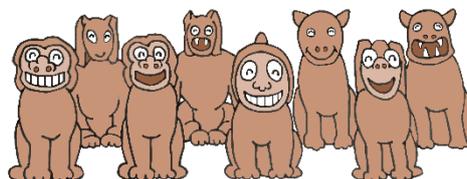
E-mail [ohyama-rekimin@city.toyama.toyama.jp](mailto:ohyama-rekimin@city.toyama.toyama.jp)

開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）

観覧料：大人100円 高校生以下は無料

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、祝日の翌日

Webサイト：[大山歴史](#)  検索 



「有峰狛犬」